

柳坪幸佳

言葉と闇と

言葉にもたれて街を眺める

言葉はわたしの背中でこまかな泡を吹いているようだ（だが、聞こえない）

その振動のぐずぐずに離れられない

言葉は強情な塊となってひたすらに伸び

わたしの背中を食い殺しながら、その裏の闇をのみこんでゆく